

2020 年度 事業報告書

障がい者支援施設 天草更生園

【生活介護事業・施設入所支援事業全般】

2020 年度生活介護事業・施設入所支援事業の利用者の動向として、生活介護事業（通所利用者 1 名含む）においては、退所者 1 名（死亡 1 名）の変動があり、2020 年度末現在で 56 名の方が利用されています。施設入所支援事業においても同様に、退所者 1 名（死亡 1 名）の変動があり、2020 年度末現在で 55 名の方が入所されています。

障害支援区分（平均）については、生活介護（日中）及び入所支援（夜間）ともに 4.3 となっております。

生産活動については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、クリーニング事業については売り上げが減収となりましたが、軍手及びウエス事業については、営業活動の機会を増やした結果、販路が拡大され、昨年より売り上げが増収となりました。尚、珈琲事業については、例年通りでした。

日中活動においては、機能訓練、創作活動、趣味的活動、散歩（ふれあい公園）、みんなでレクリエーション、半日外出支援を実施しました。半日外出支援については、新型コロナ感染症の影響から、車窓から景色を堪能してもらうドライブに変更し、帰園後に珈琲（自家焙煎）とケーキを提供し、カフェの雰囲気味わってもらいました。参加された利用者の方からは「新型コロナでなかなか外出する機会がなく、気分がめいていたけど、よい気分転換になりました。」等との言葉もいただきました。その他に新しい取り組みとして、少しでも利用者の方のストレス軽減になり又、楽しんでもらえるように、職員による「お楽しみ会」を各部署（生活部、就労部、事務部）ごとで数回に分け企画・立案し実施しました。

施設生活全般（生活・医療・介護・食事）においては、利用者の方が、安全・安心に施設生活が過ごせるよう、支援に取り組みました。また、これまで同様に新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、対策会議（施設全体及び各部署ごとの）を行い、施設内外での更なる感染防止に向けた今後の対応及びマニュアル等の作成を行いました。尚、利用者皆さんに対しても、帰省や外泊など感染状況及び

外出等の自粛の協力について説明（お願い）し、感染防止に努めていただきました。

医療面では、利用者日々の健康観察を行うと共に、新型コロナウイルス感染症等の感染防止にこれまで以上に努め、体調不良等で状態把握が必要な方に対するバイタルサインチェック（体温、血圧、脈拍、呼吸）の把握及び入退院時等の関係機関との連絡調整に努めました。

また、年2回（7月・1月）の健康診断の他に歯科検診（7月）、病院受診時の引率付き添い支援及び補装具の修理・申請等の支援についても感染対策を取り実施し、利用者の健康維持・増進に努めました。

利用者支援では、必要に応じ随時会議及び検討会を行う他、毎月生活支援会議・スキルアップ研修を実施し、職員個々のスキルアップにつなげると共に利用者本人のニーズ（状態）にあった支援を行いました。

また、利用者間の相談・苦情の訴えに於いては、傾聴に心がけながら状況を把握し相談支援、苦情解決支援に努めました。

個別支援においては、本人の意向、適性、個々の障がいの特性その他事情を踏まえ、関係職員及び関係機関との連絡調整を行い、個別支援計画に基づいたサービスの提供を行いました。

介護面では、床走行リフトを導入し1年が経過しましたが、職員による操作方法にも問題なく、利用者移乗介助の統一が図られ移乗時の怪我、摩擦等によるスキントラブル等の軽減、職員の腰痛予防及び緩和につながりました。

食事面では、衛生管理マニュアルの確認、業務内容の見直しを行い職員の質の向上・意識の改善に努め、療養食及び身体状況に応じた食事（粥食、刻み食やソフト食など）、各種行事食の提供を行うと共に関係職員と連携を図り健康の維持・管理を行いました。また、新型コロナ感染症対策として1週間分の非常時献立を作成すると共に、非常事態に備え給食の提供が出来るよう各業者との連絡・調整を行いました。

行事関係では、ミニふれあい祭を令和2年11月7日に館内にて実施しました。また当初の予定として、利用者日帰り旅行及び1日外出支援を実施することにしていましたが、新型コロナウイルス感染症が全国に拡大し又、国、県の「緊急事態宣言」の発令及び、苓北町を含めた近隣地域での感染者の発生に伴い、関係職員で協議した結果、参加予定であった利用者の方へ現状（経緯）を説明し同意

のもと、中止することになりました。その代替えとして職員による「お楽しみ会」及びドライブ等を企画・立案し実施致しました。また、「みんなでレクリエーション」をタイトルとしたグループレクリエーションに毎月取り組みました。内容としては、紙相撲や輪投げ、グーパー体操、風船バレー等を行い、今年度の参加人員は延べ 136 名でした。参加された皆さんの日頃見ることのない笑顔や笑い声を聞くことが出来ました。又、ふれあい公園については、利用者が季節を通じて折々の花を見ることで、心身のリフレッシュを図りました。

一昨年度から、動物セラピーの目的で施設の中庭で飼っている、うさぎ（4羽）については、目で見たり直接触れることで、利用者・職員の心身のリフレッシュにつながり、心の癒しになっています。

〈感染症対策〉

職員については、新型コロナ感染症の感染防止対策として、職員及びその家族に対しても不要・不急な外出自粛に取り組みました。尚、職員又は、その家族がやむを得ない事情により感染区域に出向く場合又は、感染区域から来訪する場合については、事前に上司に相談し、予定日の1週間程前から体調不良の有無などの状態観察を行い、状況に応じ自宅待機等の対応を行いました。尚、マスクの着用及び手指消毒の徹底はもとより、出来るだけ外部の人と接触しない等の感染防止対策にも取り組みました。又、その間の行動については、行動記録を作成し徹底しました。その他に発熱等の異常が生じた場合は、自宅待機等の徹底した感染防止に努め現在も、継続しております。又、各種研修会及び会議等においては、主催者側による開催中止や感染防止対策の為、全て不参加としております。利用者については、帰省や外泊及び外出等の自粛についての説明（お願い）し、感染防止に努めていただきました。又、感染の状況に応じ利用者家族への帰省自粛のお願いの文書を送付しました。尚、帰省期間中は外出等の自粛をお願いしたり、施設側から定期的に様子観察の連絡をとりました。

〈オンライン面会〉

新型コロナウイルスの感染拡大により、利用者の帰省及び家族との面会も自粛をお願いする状況が続く中、パソコンや携帯電話（スマートフォン）の専用アプリを利用することで、直接家族と顔を合わせ会話できる、オンライン面会を昨年12月頃より始めました。家族の方からも好評で、毎月予約される家族もおられ、今後も続けていきたいと思っております。

（利用者 8 名：8 家族、延べ 14 名利用）

2020年度 事業報告書

障がい者就労センター 天草更生園

【就労継続支援A型事業全般】

2020年度のA型利用者の動向として、新規契約者3名(就労B型利用者3名)、契約終了者1名(本人の都合)の変動があり、2020年度末現在でA型事業利用者の現員は6名です。利用者においては、1名の利用者が65歳を迎え、3月末で定年となりますが、今後の生活のことや本人の意向を確認し継続して就労ができるように、本人の希望にて4月から就労B型を利用されます。新規利用者においては、就労B型より就労A型へ3名が新しく移行しました。3名とも20才代と年齢も若く、将来的には一般就労を目指している方もおられます。それぞれの担当作業では、作業中はメモを取り、作業の段取りをするなど積極的に取り組まれています。又、作業面だけではなく、他者とのコミュニケーションの取り方や言葉遣いについても助言を行いました。

クリーニング事業では、昨年3月頃より新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、リネン使用量の減少にてホテルリネンの売り上げが約1,100万円減収となりました。このような状況の中、工場で使用するボイラーの稼働時間を制限するなど、時間内に効率的に作業を行うことで燃料費を抑え、出来る限り支出を減らすよう経費削減に取り組みました。新規クリーニング契約では、これまで私物洗濯について検討を行っておりましたが、今回、はまゆう療育園様から私物洗濯の必要性の相談を受け、取引先と協議を重ね、試行的な期間をもうけるなど、双方が納得いく形で成約することができ、昨年12月から私物洗濯及びタオルリースを開始することができました。

新型コロナウイルス感染防止対策については、「新型コロナウイルス対策会議」を行い、利用者・職員への出勤前と出勤後、昼食後の検温、うがい、手洗いの実施、利用者・ご家族様にも外出自粛のお願いと協力を依頼し、作業・集配業務では工場内やその他、手で触れる箇所や集配トラックのコンテナ内についても消毒する等の徹底した感染防止対策を継続して実施しました。又、ホテル関係全ての取引先に対しリネンの取扱いについて文書を送付し、電話の問い合わせについても直接説明を行うなど、対策をご理解いただき対応いたしました。

職員においては、日本セルフセンター主催のクリーニング部会「①私物クリーニングの現状と展望、②工場の暑さ対策」についての研修会にリモート形式で参加し、他の事業所との意見交換を行いました。又、今回初めてのリモート研修を経験し、必要な情報を聞きたい相手に直接聞ける点や、開催地までの移動時間や経費を掛けずに研修会が開催される点など、リモートの利点を実感しました。

賃金については、コロナ感染症の影響を大きく受けた状況ではありましたが、利用者、職員全体で努力して取り組んだ結果、平均賃金月額 137,036 円を支給いたしました。

(2019 年度全国平均賃金月額
78,975 円)

2020年度 事業報告書

障がい者支援センター 天草更生園

【就労継続支援B型事業全般】

2020 年度のB型利用者の動向として、新規契約者 1 名(一般)、契約終了者 4 名(就労A型移行 3 名、体力低下により施設へ移行 1 名)の計 5 名の変動があり、2020 年度末現在でB型利用者の現員は 33 名(内訳はクリーニング事業 25 名、印刷事業 4 名、珈琲事業 4 名)の利用がありました。利用者においては、B 型利用者で作業の習熟度が高く、A 型移行を目指して努力されてきた 20 才代の 3 名の方が移行されました。今後も更に就労A型事業所と連携し、A 型へ移行できる利用者の育成に努めていきます。

クリーニング事業では、昨年 3 月頃からの新型コロナウイルス感染拡大による病院寝具類への影響については、ホテルリネンとは異なり例年に近い状況でありましたが、ホテルリネン同様、工場で使用するボイラーの稼働時間を制限するなど、時間内に効率的に作業を行うことで燃料費を抑え、出来る限り支出を減らすよう経費削減に努めました。新規での契約については、天草セントラル病院関

係で新設された地域密着型施設1件と寝具賃貸契約を行いました。設備関係においては、コロナ禍の中、老朽化した連続洗濯機の入替え設置を行うことは出来ませんでした。作業が滞ることのないよう業者によるメンテナンスを行い不良箇所の早期発見に努め修理等の対応を行いました。

印刷事業では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり注文件数が減りましたが、優先調達推進法を活用し、苓北町役場・社会福祉協議会、苓北支援学校より、封筒の受注を増やすことができました。

珈琲事業では、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、例年出店していた町内外のイベント（しょうぶ祭り、天草市役所販売他）、TSUTAYAでの試飲会も中止や参加を自粛しました。町内ショッピングセンターにある珈琲工房麟泉シープル店も感染防止を優先し、感染者が天草管内で発生した場合やゴールデンウィーク、お盆期間、年末年始など通常では売り上げアップにつながる期間も人の集まる機会を避け、感染防止対策を優先し休業を行いました。このような中、県内外多くの方に麟泉珈琲を知っていただき、味を楽しんでいただけるように、新たに苓北町のふるさと納税での「さとふる」への登録も行いました。

新型コロナウイルス感染防止対策については、「新型コロナウイルス対策会議」を行い、利用者・職員への出勤前と出勤後、昼食後の検温、うがい、手洗いの実施、利用者・ご家族様にも外出自粛のお願いと協力を依頼し、作業・集配業務では工場内やその他、手で触れる箇所や集配トラックのコンテナ内についても定期的に消毒する等の対応を行い、徹底した感染防止対策を継続して実施しました。又、病院・施設関係全ての取引先に対し寝具の取扱いについて文書を送付し、電話の問い合わせについても直接説明を行うなど、対策をご理解いただき対応いたしました。

職員においては、A型事業同様に日本セルフセンター主催のクリーニング部会の研修会へ参加するとともに、就労部で毎月開催する就労支援会議・スキルアップ研修にて幅広く知識高め、理解を深め充実したサービスの提供、個々のスキルアップに努めました。

B型事業の工賃につきましては、コロナ禍の影響を受けた状況ではありましたが、平均月額45,241円の工賃を支給いたしました。又、次年度の報酬アップにもつなげることもできました。

(2018年度全国平均工賃月額16,369円)